

医療分野 人材育成へ

網走市と道科学大連携協定

【網走】市と道科学大（札幌市、苫米地司学長）は20日、地域福祉の振興や病院職員の人材育成を目的とする連携協定を結んだ。協定には、2者による共同研究や同大による市民への学習

機会の提供、学生や教員の市の事業への参加などが盛り込まれている。

4月に道工大から名称変更した道科学大は、各振興局で1自治体を目安に同様の協定を結んでいく考えで、道工大の同窓会である雪嶺会網走支部（山本利彦支部長）の働きかけで、網走市との締結に至った。

同大は、4月に

看護学科や診療放射線学科を新設したほか、将来的に道薬科大の統合を予定するなど、医療分野に力を入れている。

市役所で開かれた調印式で、水谷洋一市長は「市内では医療や建設の人材不足が深刻。多くの学生が網走に来てくれることを期待している」と述べ、苫米地学長は「道科学大の力を結集して、市の発展に協力したい」と話した。

同大はこれまで十勝管内幕別町や札幌市手稲区などの道内1区3町村、青森県弘前市と同様の協定を結んでいる。（米田真梨子）

北海道科学大学 網走市
「連携協力に関する協定」に係る調印式



連携協定を結び、握手を交わす水谷市長（右）と苫米地学長